

令和7年度 第3回墨田区行財政改革推進会議 議事要旨

開催日時：令和7年10月31日（金） 午前9時30分～午前11時00分

開催場所：墨田区役所7階 庁議室

出席者：委員3人（倉阪秀史、平山敏弘、近藤弘忠）

区側出席者8人（小倉孝弘（企画経営室長）、岐部靖文（企画経営室参事）、松本輝之（ICT推進担当課長）、事務局4人）

会議の公開：公開（傍聴者なし）

- 議事内容：1 開会
2 墨田区行財政改革・行政情報化計画の改定について
3 意見交換
4 次回会議開催についての案内
5 閉会

議事要旨

2 墨田区行財政改革・行政情報化計画の改定について

上記について事務局から説明後、意見交換を行った。意見要旨は以下の通り。

- 「デジタル基盤」の指す概念は範囲が広い。具体的なイメージを共有しておく必要があると考える
⇒ 共通利用するネットワークや、基幹系システムのことを想定している。
- BPRを進めるにあたっては、業務プロセスを描き切るのが大事。それが不十分だと個別最適に陥りがちな傾向がある。
⇒ ご指摘のように全体最適を目指すのも大事だが、逆に「範囲が広すぎて取り組めない」となることも考えられることから、そのバランスを見ながら取り組んでいきたい。
- 「オープンデータ」との記載があるが、この具体的なイメージは？
⇒ データの民間活用」をイメージしており、情報公開請求とは別の考え方という認識である。
- 大学連携の意義はどのように考えているのか？
⇒ 相互連携し、その成果を地域に還元できるようにしたいと考えている
- 「大学連携」という項目名となっているが、千葉大やiU以外、地域の若者の意見も取り入れる必要があるのではないかと
⇒ 項目名は「大学連携」となっているが、区内の中学・高校と連携した取組は現在も行っているところであり、引き続き、若者の声を区政に取り入れたたり、課題解決につなげる取組を進めていきたい。

- デジタル化を進め、「来なくていい窓口」、「書かなくていい窓口」を実現するにあたっては、「だれ一人取り残さない」という意識を大切にしてほしい。逆にデジタルを活用して視覚や聴覚に障害のある方の参画を実現することも可能なのではないか。
⇒ デジタルを使える人だけがメリットを享受できるような形ではなく、そうでない人に対する寄り添った対応も組み合わせながら区民サービスの向上を図っていきたい
- シニア層など、意欲はあるが、デジタル化への対応ができない人に対してどうサポートするかの記事が特段ないが、その辺りはどうか？
⇒ 本指針は行政全体としてリソースをどう確保・活用するかを示したものであるため、個々の取組までは記載していないが、現在も高齢者や障害者に対する一定のサポートは行っている。